

令和7年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第1回)

議事録(案)

令和7年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第1回) 次第

令和7年9月30日(火) 15:00～16:00

会議室：水道技術研究センター第1会議室+Zoom

1. 挨拶

水道技術研究センター

水道情報活用システム標準仕様審査委員会

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

国土交通省 水管理・国土保全局 水道事業課

独立行政法人 情報処理推進機構

一般社団法人水道情報活用システム標準仕様研究会事務局

2. 出席状況・資料確認

○出席者(委員)

会場：石井晴夫委員長、新誠一副委員長、安部義博委員、小平鉄雄委員、
橋詰伸夫委員、森竜也委員、永井卓真委員

リモート：青柳委員、久津間委員、小林委員、坂牧委員、塩谷委員、早瀬委員、
三浦委員

○出席者(オブザーバー)

会場：田中様、佐藤様(情報処理推進機構)

西地様、富吉様(経済産業省 経済産業政策局)

リモート：木村様(経済産業省 情報産業課)

吉川様(国土交通省 水道事業課)

3. 議事

凡例： ☆：報告事項、●：決定事項 or 今後の検討内容、➤：コメント等

3-1. 前回議事録の確認

☆ 資料1に基づき、審査委員会事務局が前回審査委員会議事録の説明を行った。

●特に意見はなく、前回議事録は承認された。

3-2. 研究会の活動概況について

☆ 資料2に基づき、研究会事務局が研究会の活動概況を報告した。

➤水道のDXには大きな期待がかけられていると思う。研究会としては、10年前に作成した仕様書が時代に合わなくなってきたと感じている。広域化、コストダウンの要望もあり、ベンダーロックイン解消以外のこともしていかなければいけない。今年度は仕様書を今の時代に合わせた形で見直していくという方向に舵を切り、マッピングと監視制御SIGを立ち上げた。仕様書の改定については、鋭意審議中で後期の審議を見込んでいる。研究会としては、仕様書の改定管理だけではなく、会員数増加に向けた活動をしていきたい。水道DXをまだ十分把握されていない事業体があり、それから自分の技術が水道に役に立つのかということはまだ確信していないベンダーもいる。DXは情報だけでなく、現場を見ないと使い物にならないことを研究会として非常に強く認識したので、委員以外、これから導入したい事業体にも視察していただいて、スムーズな展開に結びつけていきたい。（新副委員長）

➤水道の1000事業体に対し、工業用水は約140事業体、240程度の事業数がある。水道情報活用システムの工業用水での実績は、大体3件ぐらいというところでまだまだ進んでいない。工業用水は小さな事業体も多く、なかなか導入の意思決定が難しいと聞いている。経済産業省地域産業基盤整備課としては、この水道情報活用システム導入を補助しており、積極的に工業用水事業体が入れるような仕組みを整えて、説明している。まだ事業体からの導入要望が少ないので、これからも積極的にPR促進していきたい。（経済産業省経済産業政策局 西地オブザーバー）

➤水道情報活用システムについては、将来を考えて導入したい経営層と、今よりも忙しくなること、逆に今よりもやりにくくなることを感じている現場との意見をマッチングさせる必要性を感じている。事業体内のやりとりをほぐせるような形で、研究会のほか、すでに導入している研究会会員が働きかけることも含めて、検討してはいかがか。（橋詰委員）

➤今回報告した情報交換会でも、説明が終わった後の意見交換会という形でテーブルを囲み、複数の事業体で意見交換する場を提供し非常に好評だった。やはり先行して導入してる事業体と、現在まさにこの検討を開始する事業体との意見交換は非常に参考になると評価いただいております、研究会としても様々なイベントで情報交換の場を積極的に設けて参りたい。（研究会事務局佐山様）

➤大分市は、施設台帳システムの運用が開始した。今後は、広域化について、関連す

る市町村と連絡をとりあいながらやっていきたい。（安部委員）

➤システムを導入することを目的とするのではなくて、事業者の方々と、このシステムを通じて、もしくはこのシステムの将来の姿を通じて、事業をどう効率化するか、効果的にどう運用していくかまで議論して、研究会、勉強会で我々からも情報発信できている。（永井委員）

➤研究会が今度の水道研究発表会で報告するというので、会場で聴講できない事業者、企業向けに、別の場で聴講できる機会を検討いただきたい。（森委員）

➤資料提供も含め、フォローできるように検討する。（研究会事務局佐山様）

➤簡易水道でも、水道情報活用システムを把握していないところが多い。簡易水道でも水道施設台帳の整備が法制化され、義務づけられているが、まだ紙で整理しているところがある。災害対策を意識して水道情報活用システムの導入を検討している自治体がある。各市町村の事業体に動機付けになるような支援や、先例の提示などの必要性を感じている。（小平委員）

➤簡水の施設台帳の電子化が進んでいないのはショッキングな状況であり、また、簡水は特に監視制御の電子化・AI化が効果的である。（石井委員長）

➤今後、簡易水道事業者様向けの説明会、報告などを簡水協様と連携して検討して参りたい。（研究会事務局佐山様）

4. その他

事務局連絡

添付資料

資料－1 令和6年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回)議事録(案)

資料－2 一般社団法人水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況について

以 上